2011年度

理事長：青野博志（あおのひろし）

01 理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

静岡ＪＣが発足してから６年目でした。清水でもなく駿河でもない、静岡ＪＣとしての立ち位置が確立されてきていた年でしたから、静岡ＪＣが意味ある団体であるため、メンバーが静岡ＪＣのメンバーで良かったと思える団体を目指しました。青年会議所は実体験を通して自己が成長できる場所であり、そうでなければならないと思います。無駄と感じて活動していたとしても、終わった時に自分で「成長できたな」と、実感できる機会作りをしました。

02 スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

前年に起こったリーマンショックの影響などがあり、経済状況が大きく落ち込む中、「自分さえよければよい」という考えが社会的に目立つようになっていました。それ以前からも、マネーゲームなどが増え、日本人として持っていた良さである道徳心というものが薄れてきていたように感じていました。そうした中、「利他」という言葉を使い、自分が一歩下がることによって他人がどうなるかという視点を持つ社会人になってほしいという気持ちを所信、スローガン、基本方針に込めました。

「不満を心で感じ言葉や行動に出す。それが愚痴となる。」　自分の思考回路のスタートを物事に対する不満ではなく、自分がどうすることによって物事を変えられるかをスタートにすれば、愚痴にはならず相手のことを考えることになります。それをみんなができるようになった時、社会が変わると思いました。

03 JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

ＪＣには多くの人がいて、多種多様で影響されるような人に出会えます。社会的・経済的・人間的に凄いなと思える人と出会い、自分の反骨精神が刺激され、いつかこの人を上回りたいと思えるようになりました。また、社会では結果が求められるが、ＪＣではプロセスが重視されます。壁を乗り越えてこその結果ですから、無駄だと思うプロセスも重要だということに気付けるようになります。

04 １年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

1年の終わりに自らの責任期限である１２月３１日の０時を越えた時、担った１年をメンバーと共にトラブルや事故がなく無事に終えて、次の年度へとバトンを渡すことができたことが一番嬉しく思いました。

05 今のＪＣ と当時のＪＣ の違いがあったら教えてください。

ＪＣが異業種交流会のようになってきてしまっていることを危惧しています。出会いや楽しみを求めて入ってくる人も多く、上澄みの良い部分だけを体験し、苦労することやＪＣの本質を経験することなく出ていく人が増えてきているように感じます。会社の中では上の立場にいて、話が簡単に通る世界かもしれないが、ＪＣでは簡単に意見が通らない。そういった苦労を経験していってほしいですね。例えば委員長などを経験することで苦しい部分、「ＹＥＳ」と簡単に意見が通らない世界を体験し、そこで訓練することが経営の勉強となるのではないでしょうか。

06 過去の理事長所信等を読ませて頂き、ＪＣは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

委員から委員長、室長、キャビネットを通して理事長になります。その人のアイデンティティのフィルタを通すことによって表現の違いはもちろん出てきますが、これらの役を経験していく中で見えてくる世界が共通してくることもあると思います。理事長時代に担った年はとうかい号主管事業があり、2007年のとうかい号主管の年であった2代目の所信をよく読んで参考にさせていただきました。その理事長の考え方やキャラクターが近かったりすると似たりする部分は多く出てくると思います。

07 これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願い致します。

今はＮＰＯなどの集団が多くなりましたが、昔はＪＣしかありませんでした。そしてＮＰＯは専門的知識を持った人が多く在籍して活動しています。ＪＣメンバーは経済人であるので、専門的な活動というよりは、コーディネーター的な役割ができるリーダーになってほしい思います。志を高く持つリーダーとなり、広い視野で問題意識を感じ取ることにより、ＮＰＯなどの専門知識を持った人と協力しながらリードしていけるような役割をもつ団体になってほしいですね。

08 人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

これは何とかしなければと思います。同じ政令指定都市の岡山市より多い人口で静岡市は政令市としてスタートしたのに、既に抜かれています。それを知りもしないような方は、経済人としてよくないと思います。日本は人口減少に加えて高齢化や少子化の問題をかかえていますが、これは静岡も同じであり、国と同じ道筋を進んでいると思います。青年会議所は市民や役人・政治家を動かすきっかけを与えることができるので、静岡ＪＣが本気で危機意識を発信すれば、日本を変えることができなくても静岡を動かし変える力があると思います。ぬるま湯に浸かったような状態にいつまでもいるのではなく、現状を知り、目標を立てるべきです。それを是非静岡青年会議所でドーンとやってほしいですね。流動人口以外の人が入ってくるような街にしてほしいと思います。

09 静岡ＪＣの歴史沿革の中に記すとした時、2011年度のキーワードとして『震災』『復興』『利他』『感謝』等があると思います。青野シニアにとってその年をひと言で表すならどのような言葉を選びますか。

「利他」　日本人とは？ということが問われた年だったと思います。自分の思想や人生観、生き方を考えさせられた年だと思います。東北大震災が起こったことにより、日本人の良さというものを再認識することができた、わかった年でした。初動を含め、もともと日本人が持っていたものを発揮することができたと思います。震災はたまたま起こってしまったことではあったがその結果、日本人の良さを感じることができた一年でした。

10 2011年度はとうかい号の事務局主管という大役を担っておりましたが、その事業を通し理事長として静岡JCとしてどんなことを学びましたか。

1億数千万という予算を使うような大きな事業で大きな負荷がかかることにより、より結束力が強まりました。
大変な事業をやり通すことによりＬＯＭの力がつき、動いた人の力がつく。地区の中でも「静岡ＪＣってすごいね」と思わせるほど評価が高い事業を作り上げることができました。回ってくるものでやらされるような事業ではあるが、静岡のメンバーは自らが集まり、進んで事業を進めていくことができ、静岡ＪＣの組織の強さを見せることができました。

11 事業計画では「利他の心」や「思いやりの心」で活動する事業が多くありました。そして、3月に震災が起こり被災地の子供たちを静岡に招く事業が行われました。2011年度初めと終わりとで、事業に対する気持ちの変化などございましたらお教えください。

震災が起こったことで他人事ではなく自分で何ができるかを考えるようになりました。また、突然の変更でもその年だからこそできる未来学園を実施することができました。最初と最後で理念が大事という考えや思いは変わらなかったのですが、震災が起こったことによって、結果的に「利他」という言葉がよりわかりやすくなった年になりました。

12 とうかい号、未来学園など多くの事業を通し、「利他の心」と「感謝の心」を学ぶ年となったと思います。メンバーのどのような場面を見て「利他の心」が浸透したと感じましたか。

利他という言葉を何回も耳にする機会を作りました。メンバーの頭に印象付け、それをその年、その時だけではなく、様々な機会で発揮、感じることができたのではないかと思います。例えば、メンバーが他のメンバーを喜ばせるために遠方まで足を運び、誕生日用のビデオレターを作るということもあったりして、人を思って行動する場面を多く目にしました。どこまでメンバーが変わったかはっきりとはわかりませんが、変わったと信じたいですね。成果は、家庭や仕事場で発揮されているのかもしれません。

取材全体としてのまとめ・感想

「自身の一念の変革」「利他の心」という所信・スローガンは震災前に立てられたものでしたが、結果的には震災後も変わらず実行された年となりました。震災がさらなるきっかけとなり、自らの考えで利他の気持ちで行動できたＬＯＭメンバーが目立った年であり、そのことが理事長の喜びとなったようです。

取材前と後での特に気付いた点

この年は年度の途中で震災が起こりその対応に追われてしまったのではないかという先入観がありましたが、理事長の話を聞き、実際は震災が更なる「気付き」となり、ＪＣ活動としての取り組み自体は変更しなかったとのことでした。震災支援活動は、人として、ＪＣとしてできる部分は行いましたが、我がまち静岡に対するまちづくり活動を放棄することなく事業計画通りに行われました。理事長として、それこそがＬＯＭの為、まちの為にできる事であるという信念を持っておられたようです。